



**2019年度 年主題「ことばに満たされて～ひびきあう～」**

**0・1・2歳児 2月主題 「広がって」**  
月のねがい

- ◎寒さの中にも神さまが備えていて下さる春を感じる(0) ◎保育者や友だちと模倣遊びを楽しむ(0) ◎保育者とのことばのやりとりを楽しむ(0)
- ◎手や指を十分に使って遊びが広がっていく(0)
- ◎自然を通して神さまの御業を知る(1,2)
- ◎全身を動かし、手や指を十分に使って遊ぶ(1,2)
- ◎異年齢の子どもたちに関心をもつ(1,2)

**3・4・5歳児 2月主題 「協力する」**  
月のねがい

- ◎季節の移り変わりから自然の不思議さを感じ、いつもお守りくださる神さまの愛を知る
- ◎物事にすすんで粘り強く取り組む中で、友だちを互いに認め合い信頼関係を深める
- ◎遊びや生活の中での知恵や喜びを、互いに伝え合う



**今月の聖句 「最も小さい者たちのひとりにしたことは、私にしたのです。」**

マタイ25:40

19世紀のロシア文豪トルストイが描いた物語に、「靴屋のマルチン」があります。靴屋のマルチンは、妻子に先立たれ、一人寂しく暮らしていました。ある晩、彼は夢の中でキリストの声を聞きます。「明日あなたのところに行くから、待っていて。」次の朝、マルチンは本当にキリストが訪れるだろうかと待ち焦がれながら、行きかう人々に目を向けていました。そして、雪かきに疲れたおじいさんを見つけ温かいお茶をご馳走してあげたり、貧しい母子を見つけ温かくもてなしたり、リンゴを盗んでおばさんに怒られる少年を見つけてはその仲裁に入ったりもしました。けれども結局、キリストは現れませんでした。その夜、マルチンは祈ります。「神様、今日私は人々のために出来る限りの事をしたら、皆喜んでくれて、私も嬉しくなりました。でも神様、今日はどうしておいでにならなかったのですか」と。すると、その時、聞き覚えのあるキリストの声再び聞こえてきました。「マルチン、私は今日あなたに会いましたよ。雪かきをしていた男の人も、寒さに震えている女の人も赤ちゃんも、リンゴを盗んだ男の子も。それはね、実はみんな私だったのですよ。」そして、聖書に記された言葉が響いてきました。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイ伝25:40)。マルチンは、人に何かを与えることで、彼が最も欲していたこと、自分は独りぼっちなんかじゃないということ、得ることが出来たのです。

協力牧師 池田基宣

**2月の行事予定**

1日(土)	おゆうぎ会
3日(月)	振替休日(1号)
4日(火)	持久走試走(予備日6日)
8日(土)	持久走大会(予備日10日)
12日(水)	2月誕生会
14日(金)	冬の一日遠足 ※弁当日
25日(水)	シオンの仲間大会(年中・長)
27日(木)	保育参観(こすもす・たんぼぼ)
28日(金)	保育参観(すみれ・あじさい)

**3月の行事予定**

4日(水)	絵本の会ラスト公演
5日(木)	お別れ会・バイキング
16日(月)	卒園式
19日(木)	修了式(1号午前保育)
30日(月)	新学期準備のため休園
31日(火)	〃

**退職のお知らせ**

前田美由紀支援員が体調不良のため1月末日をもって退職致しました。皆様にはこれまで大変お世話になりました。今までのご支援に心より感謝申し上げます。

**『7年6ヶ月』**

これは何の時間だと思いますか？これは仕事をしている母親が我が子と生涯で過ごす時間だそうです。父親はさらに短い3年4ヶ月と言われてます。先日たまたま SNS で『我が子と生涯過ごす時間』という記事が目に入り、こんなにも我が子と一緒に過ごす時間が短いことに驚きました。私自身2歳児の息子がいるのですが、朝は「早くしなさい!」、夜は「早く着替えて!」「いつまで起きてるの?」と急かしてばかりだと気づき反省です。この7年6ヶ月の中でも、「ママ～」と甘えてくる時間はもっともっと短く、今こそいっぱい抱きしめて、いっぱい手を繋いで、いっぱい一緒に笑って過ごしたいと改めて思いました。お子さんと過ごす時間、考える機会になれば幸いです。

さて、明日はお待ちかねのおゆうぎ会です。たったひと月のお稽古でしたが、遊ぶ時は思いっきり遊ぶ!お稽古の時はみんなと頑張る!と気持ちを切り替えながら取り組む子どもたちでした。大人でも緊張する舞台上で頑張る姿、表現を楽しむ姿、みんなでひとつのものを作り上げる姿に心を動かされました。おゆうぎ会が終わると恒例のおゆうぎ会ごっこ。お友だちのしていた表現を試してみたり、みんなの前で先生役で踊ったりと、みんな頑張ったの余韻を楽しみたいと思います。

今年度も残り2ヶ月となりました。進級や進学を前に、期待と不安で普段よりも気持ちが不安定になりやすい時期です。ゆっくり話したり、ぎゅーっと抱きしめてあげるときっとお子さんの心が充電されると思います。いつもよりちょっと様子を見てあげてくださいと嬉しいです。残り2ヶ月、楽しい思い出がたくさんできますように心が祈ります。

大河



私たちが身近におられる足の裏の人たちのおかげで、私たちは毎日平穏な暮らしを送ることができ感謝です。おゆうぎ会が終わると、全部の演目をみんなで一緒に表現して楽しみます。小さい子どもたちが、他の表現の動きをよく覚えておくことにいつも驚かされます。この主体的で自由な活動を導くためにおゆうぎ会があると、この主体的で自由な活動が、層の上ではもう春。次第に日差しや肌に触れる風が、心地よく出てくる季節。残り少ない三学期を楽しんで春はもうすぐ来ています。

園長

**誰かの役に立つ喜び**

大寒が過ぎ去ったのも気づかないまま、立春を迎えようとしていきます。ほとんど厳しい寒さを感じることのなかった今冬。今から寒波が襲うかもしれないけれど、まもなく訪れる春を思いながら、びりびりとした空気も楽しみたいと思います。

「ギブ・アンド・テイク」という言葉からは、「一つ与えたら一つ見返りを受け取る」というようなメリットで成り立つ冷たいイメージがありますね。でも本当は、ずっと与え続けていたら、本当に必要なタイミングで、素晴らしいギフトが与えられるような「ギブ・アンド・ギブ・アンド……」という「ギブ・アンド・ギブ」なんです。相手から貰う事に執着するのではなく、相手に与える事に意識を向ける事がとても大事なことではないかと、ある本にギブ・アンド・テイクという関係性について書かれています。マッシャー(Macher)は真つ先に自分の利益を優先させる人。テイカー(Taker)は真つ先に自分の利益を優先させる人。マッシャー(Macher)は損得のバランスを考へる人です。一般的にはどれか一つというのではなく、時と場所によって無意識に使い分けている人が多いのではないのでしょうか。中には生き方そのものがテイカーである人もおられます。先日銃撃に遭い亡くなられた中村哲医師やスーパーボランティアの尾島春夫氏など、まさにテイカーそのものだと思います。大上段に構えず、ただ淡々とその生き方で生涯を貫く人です。これらの方々は、ニュースになるような出来事がない限り世に知られることはありません。昨今は、「世のため人のため」という言葉は聞かれなくなりました。しかし、自分の生活に直接関係の無いことでも、目立たず不満を見せず黙々とされる方に時折出会います。身内ではない見知らぬ誰かのために役に立ちたいという喜びを持つことはなんと尊いことでしょうか。

九五歳まで創作し続けた詩人「坂村真民」氏の一篇の詩を紹介いたします。

貴いのは足の裏である  
 一生人に知られず 一生きたない処と接し  
 黙々として その務めを果たしてゆく  
 足の裏が教えるもの しんみんよ  
 足の裏的な仕事をし 足の裏的な人間になれ

自分で考える力を育もう!  
～選ぶ力～

心理 木口屋恵子

**お父さん・お母さん 編**

“子どもに考えさせる”を習慣にしよう!

- ① 選ばせよう!
  - ・「どれを食べる?」
  - ・「着る?着ない?」
  - ・「何して遊びたい?」
  - ・「どちらからやる?何からやる?」
  - ・「まだ続ける?お終いにする?」等
- ② 考えさせる質問をしよう!
  - ・「どうしたいの?」
  - ・「どうしてそうしたの?」
  - ・「どうしたらいいと思う?」
  - ・「そうしたらどうなるかな?」
- ③ 子どもの“選択”を尊重しよう!

**子ども 編**

自分で考えて行動できる力=生きる力へ

- ・“考え方”を覚えることができる
- ・心が動き、感性が豊かになる
- ・“考えること”を楽しむ
- ・責任をもって自ら“選ぶ”
- ・やる気スイッチが入る
- ・自分で考えて行動できる
- ・目標を達成するための力になる
- ・失敗しても乗り越える力が身につく
- ・自分の選択を認めてもらえる経験が自信になり自己肯定感が高まって、幸せを実感できる
- ・賢く、たくましく生きる力が培われていく